

3. 被害状況

(1)人的被害

未曾有の豪雨災害となった平成 22 年 10 月奄美豪雨災害では、奄美大島全域で死者 3 名、重症者 1 名、軽傷者 1 名、計 5 名の人的被害が発生した。(表 3-1)

	(人)			
	死亡	行方不明	重傷	軽傷
奄美市	2	0	1	0
龍郷町	1	0	0	1
計	3	0	1	1

表 3-1. 奄美大島全域における人的被害状況

このうち、奄美市では住用町西仲間にあったグループホーム「わだつみ苑」の入所者 2 名が亡くなられた。(画像 3-1)また、笠利町では陥没した道路に転落し 1 名が骨折等の重傷を負われた。



13 時 30 分頃



15 時 30 分頃

画像 3-1. 浸水時のわだつみ苑の様子

(2)家屋被害

奄美豪雨災害では多くの家屋が被害を受けたが、特に住用川の氾濫により浸水した住用町西仲間、石原集落では多くの家屋が床上まで浸水する等の深刻な被害を受けた。この他にも各地でがけ地等の崩落による土砂災害、河川の氾濫や増水等による浸水被

害により多くの市民が被災した。(表 3-2, 画像 3-2)

○住家被害 (単位：棟)

	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
計	6	303	12	58	420

○非住家被害 (単位：棟)

	全壊	半壊
計	8	107

表 3-2. 奄美市内における家屋被害の状況

▼浸水害



▼土砂災害



画像 3-2.家屋の被害状況 (住用町西仲間)

3. 被害状況

(3) ライフラインの被害

奄美豪雨災害では、奄美大島全域においてライフラインがそれぞれ甚大な被害を受けた。特に近年は電気・通信機器等への生活依存度が高いため、被災地との情報途絶が発生したことにより災害救助・安否確認等、災害発生初期の活動に大きな混乱をもたらした。各ライフラインの被害状況について次に記載する。

① 電気

奄美豪雨災害時、奄美大島全域にわたり停電が発生した。(表 3-3)主な原因は倒木等による断線が最も多く、次いで電柱の折損や流出、転倒、傾斜による被害であった。このため、被災地では多くの電化製品等が使用不能になったほか、情報入手ができなくなったこともあり、災害発生時の市民生活に重大な支障を来した。

停電世帯数
11,100

表 3-3. 奄美大島全域における停電世帯数



画像 3-3. 奄美豪雨災害での崩土による断線（笠利町^{きに}佐仁）

② 水道

奄美市内で奄美豪雨災害による被害が最も大きかった住用地区を中心に、水道管の切断・破損等により断水する事態が発生した。(表 3-4)このため、飲料水や生活用水、災害復旧に要する水の確保等、発災時からその後も大きな影響を及ぼした。

断水地区名	世帯数
名瀬小湊	292
名瀬小浜（一部）	150
住用町市	94
住用町山間	121
住用町役勝	95
住用町西仲間	136
住用町石原	25
笠利町東海岸	87
笠利町西海岸	198
計	1,198

表 3-4. 奄美市内における水道関係被害状況

③ガス設備

奄美豪雨災害時、家屋被害に伴ってガスの供給が不能または一部不能状態に陥った。(表 3-5)

災害発生時の混乱した中でのガス供給が停止する事態ではあったが、引火等を誘因するといったガスによる直接的な被害は発生しなかった。

概要	被害数
家屋倒壊・容器転倒・ガス漏れ等	95
家屋倒壊により供給不能	2

表 3-5. 奄美大島全域におけるガス供給に関する被害状況

④情報通信

奄美豪雨災害によって通信関係で大規模な被害が発生したため、被災地の情報収集等に重大な支障を来たした。(表 3-6)このことについて、情報通信体制の課題・問題点や今後の体制構築に関する提言等が「奄美大島情報通信体制等検証委員会」(P53～55)により為されている。

3. 被害状況

区分	事業者	被害状況
固定電話	NTT西日本	アナログ電話, ISDN回線, ADSL回線, 専用線
携帯電話	NTTドコモ	基地局45局停波 (水没3局, 蓄電池停止10局, アクセス回線断32局)
	KDDI (au)	基地局32局停波 (水没2局, 蓄電池停止12局, アクセス回線断18局)
	ソフトバンクモバイル	基地局11局停波 (水没1局, 蓄電池停止1局, アクセス回線断9局)

表 3-6. 奄美大島全域における情報通信関係の被害状況

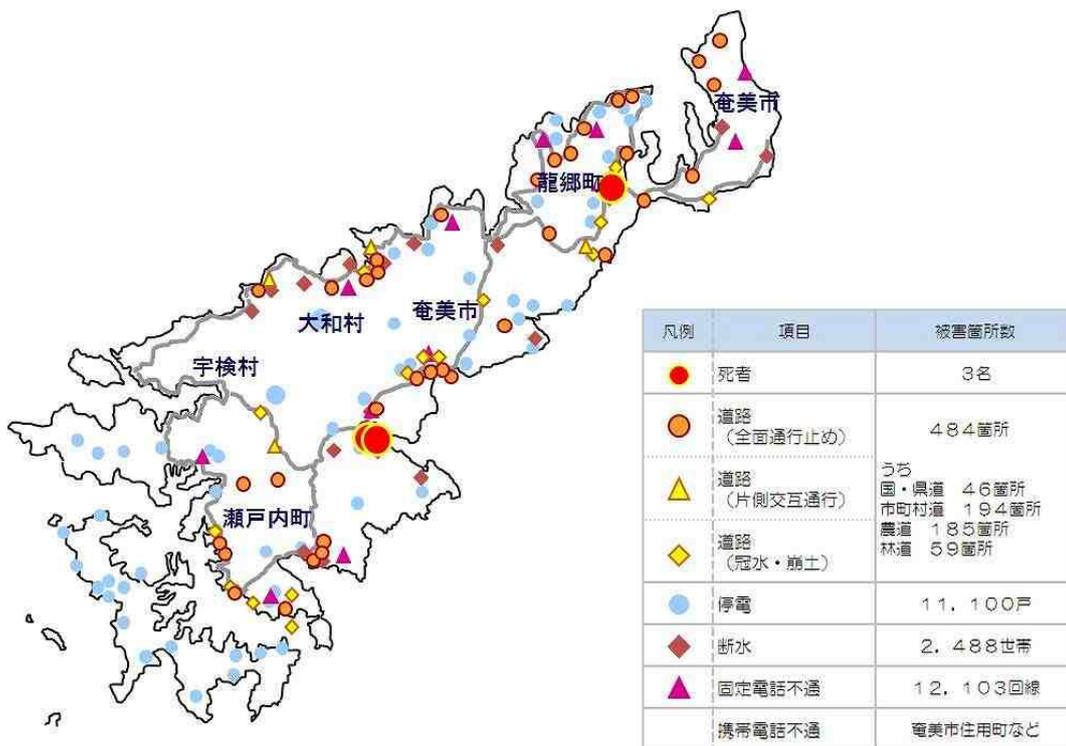


図 3-1. 奄美大島全域のライフライン等被害箇所

(4) 公共建設関係施設の被害

① 道路

近隣地域へ車輛による往来が日常的な状況となっている中、奄美豪雨災害では国・県・市道、農林道等多くの道路が崩土・崩落等により同時多発的に不能状態に陥ったため、陸上交通の途絶状態が発生する等、未だかつて経験したことがないほどの交通機能不全に陥った。(表 3-7, 画像 3-4)

	市道（箇所）
名瀬	37
住用	15
笠利	21
計	73

表 3-7. 奄美市管理道路の地区別被害箇所数

▼住用町^{くすく}城 集落内国道 58 号

▼住用町城国道 58 号城トンネル

▼県道 602 号線^{あかきなかわかみ}赤木名川上間

▼住用町木工センター付近国道 58 号



画像 3-4. 奄美市内主要幹線道路の被害状況

3. 被害状況

②河川

奄美豪雨災害時の河川の氾濫による浸水被害については「2. 災害の時系列概要」で該当河川を列挙したが、そのほかにも堤の崩落や流出等、河川自体に大小さまざまな被害が発生した。(表 3-8)

	河川 (箇所)
名瀬	17
住用	2
笠利	6
計	25

表 3-8. 奄美市管理河川の地区別被害箇所数

③市営住宅

奄美豪雨災害では一般の家屋の被害（「3. 被害状況(2)家屋被害(P14)」を参照。）の他に、市営住宅においても浸水被害・雨漏り等の被害を受けた。特に住用地区での被害はすべて浸水による被害であった。(表 3-9)

	市営住宅	
	棟数	戸数
名瀬	6	10
住用	21	69
笠利	6	21
計	33	100

表 3-9. 奄美市営住宅の地区別被害箇所数

④都市公園

都市公園は緊急事態発生時に臨時的な避難箇所としての役割を果たす機能も有しているが、奄美豪雨災害時に被害は発生しなかった。(表 3-10)

都市公園 (件)
0

表 3-10. 奄美市内における都市公園の被害箇所数

(5)農林水産施設の被害

①農業

ア)農地

奄美豪雨災害では多くの農地で浸水や土砂の流入が発生した。このため、果樹やきび・野菜等の作物が場所によっては壊滅的な被害を受ける等、農業従事者等の生活に深刻な影響を及ぼした。(表 3-11)

	農地災害(箇所)	面積(ha)
名瀬	108	6
住用	135	42.26
笠利	15	1.9
計	258	50.16

表 3-11. 奄美豪市内における農地の地区別被害箇所数及び被害面積

イ)農道

奄美豪雨災害では名瀬地区では農道への被害が多く発生し、災害発生後の農業従事に多大な影響を及ぼした。(表 3-12)

	農道(箇所)	延長(m)
名瀬	14	709
住用	0	0
笠利	2	116
計	16	825

表 3-12. 奄美市内における農道の地区別被害箇所数と被害延長

ウ)農業施設

奄美豪雨災害ではハウス等の農業施設が浸水等の被害を受け、園芸作物や畜産等に大きな被害を及ぼした。(表 3-13)

3. 被害状況

	施設 (件)
名瀬	6
住用	6
笠利	2
計	14

表 3-13. 奄美市内における農業施設の地区別被害件数

②林業

ア) 林道・林地

奄美豪雨災害では島内各地で林道の道路崩落や法面崩壊、林地の崩壊等、大小多くの被害が発生し林業活動をはじめ多くの影響を及ぼした。(表 3-14, 画像 3-5)

	林道 (箇所)	延長 (m)
名瀬	12	633
住用	7	510
笠利	3	201
計	22	1,344

表 3-14. 奄美市内における林道の地区別被害箇所数と被害延長



画像 3-5. 上空から撮影した林地の崩壊状況 (上空から市集落方向を撮影)

③水産業

奄美豪雨災害の影響により水産関係施設等が被害を受けた。特に漁業設備の被害や停電による養殖物の死滅等の被害を受けたほか、漁協事務所への浸水被害も発生した。また、他町村で発生した漁船の被害はなかった。(表 3-15)

	件数
漁船	0
共同利用施設	1
その他	5
計	6

表 3-15. 奄美市内における水産設備等の被害件数

(6)商工観光業施設等の被害

①施設・設備・商品等

奄美豪雨災害では商工観光関係事業所等において、店舗・倉庫等への浸水により機械設備や商品・製品等が使用不能になる等の水損被害を受けた。(表 3-16)

	件数
店舗・建物	10
その他施設・機械設備	31
商品・製品原材料	38
計	79

表 3-16. 奄美市内における商工観光業の種別被害件数

(7)保健福祉施設の被害

①国民健康保険診療所

住用町西仲間にある奄美市住用国民健康保険診療所は、奄美豪雨災害時、建物が水没したため、医療設備や医療器具、資料等が水に浸かる被害を受けた。

このため、災害発生直後、奄美体験交流館内に臨時診療所を設置し、当面の間の住用地区における医療体制を確保した。(表 3-17, 画像 3-6, 3-7)

3. 被害状況

施設名	被害の概要
奄美市住用国民健康保険診療所	医療設備，資料等すべてが水没

表 3-17. 奄美市住用国民健康保険診療所の被害の概要



画像 3-6. 豪雨時の奄美市住用国民健康保険診療所の浸水状況(左：13 時 20 分頃)



画像 3-7. 浸水後の奄美市住用国民健康保険診療所の状況

②高齢者施設

奄美豪雨災害では住用町西仲間の特別養護老人ホーム及び認知症グループホームが各 1 箇所，名瀬知名瀬の認知症グループホーム 1 箇所が床上約 1m～2m 以上の浸水被害を受けた。ともに災害時に援護の必要がある高齢者施設（災害時要援護者施設）であり，発災時には高齢者の支援・救出活動に困難を極めた。（表 3-18）

	名瀬	住用	笠利
特別養護老人ホーム	0	1	0
グループホーム	1	1	0
計	1	2	0

表 3-18. 奄美市内における高齢者施設の被害箇所数

③保育所

奄美市内各地で河川の氾濫等が発生したことに伴い，各地の保育所で床上浸水の被害が発生した。②同様，保育所も災害時要援護者施設であるが，最寄りの避難所等へ避難し人的被害の発生を防いだ。（表 3-19）

	名瀬	住用	笠利
床上浸水	1	2	0
一部破損	1	0	0
計	2	2	0

表 3-19. 奄美市内における保育所の被害箇所数

(8) 文教施設の被害

① 学校施設

奄美豪雨災害では奄美市内各地の小学校・中学校でさまざまな被害が発生した。主な被害の概要は、校舎・体育館等への床上浸水や校庭への土砂の流入等の被害、プール施設への浸水、土砂流入による機械設備への被害、各種備品等への被害であった。(表 3-20)

	(件)	
	小学校 ※小中学校含む	中学校
名瀬	8	3
住用	1	2
笠利	2	0
計	11	5

表 3-20. 奄美市内における各小学校・中学校での被害発生件数

② 教職員住宅

奄美豪雨災害では市内各地の教職員住宅で床上浸水の被害が発生した。(表 3-21)

地区	分類	校区数	被災戸数
名瀬	小学校	1	1
住用	小学校	1	2
	中学校	2	7

表 3-21. 奄美市内における各教職員住宅の床上浸水被害数

3. 被害状況

③文化財施設

奄美豪雨災害発生直後、国・県・市指定文化財の被害状況を踏査したが被害は見られなかった。(表 3-22)

文化財(件)
0

表 3-22. 奄美市内における国・県・市指定文化財の被害件数

④その他施設

①～③に記載した文教施設以外の施設においても豪雨による被害を受けた。(表 3-23)

施設名	被害の概要
奄美体験交流館	ボイラー設備冠水
住用運動公園	土砂流入
住用プール	配電盤水没
住用弓道場	電気設備冠水

表 3-23. 奄美市内におけるその他の文教施設の被害の概要

(9)交通機関

①航空路

奄美豪雨災害の発生による航空機や空港施設の被害は発生しなかったが、発災直後の多くの航空路線に欠航が生じた。このため、宿泊業や観光業、飲食業等にキャンセルが相次ぐ等の影響が生じた。

また、奄美豪雨災害以降もしばらくの間、観光自粛による二次的被害が発生するなど観光産業を中心に影響を及ぼした。(表 3-24)

月日	欠航便数	欠航路線	便数	備考
10月21日	31	奄美－鹿児島	15便	奄美－鹿児島で臨時便 1便運航
		奄美－喜界	6便	
		奄美－徳之島	4便	
		奄美－沖永良部	1便	
		奄美－与論	1便	
		奄美－東京	2便	
		奄美－大阪	2便	
10月22日	6	奄美－鹿児島	3便	
		奄美－東京	1便	
		奄美－大阪	2便	

表 3-24. 奄美豪雨災害での航空路線の欠航状況

②航路

鹿児島～喜界～知名航路を運航する奄美海運株式会社は、10月21日上り便を急ぎよ古仁屋港に臨時的に寄港した。また、同社は10月23日に災害対応のため臨時便を運航した。

③バス路線

10月21日から10月22日にかけて名瀬市街地及び宇検村内の路線を除き全面運休となった。10月22日から空港路線、10月24日には古仁屋線、10月25日には大和村線、秋名線が迂回路による運航を再開した。

(10)公共施設被害額

県のまとめによると、奄美豪雨災害での公共施設等の被害総額は奄美大島全体で約136億円にのぼった。

一方、奄美市で独自に集計した被害額は約44億円にのぼり、県被害額の32%を占めた。奄美市被害額のうち、土木関係は1,498,498千円、農業関係は343,260千円、環境林務関係は564,731千円、保健福祉関係は895,465千円、商工労働水産関係は

3. 被害状況

952,623 千円、文教関係は 154,999 千円となっている。(表 3-25)

分類		項目	県発表被害額 (1)	奄美市被害額 (2)
土木関係		県工事	1,889,328	-
		市町村工事	2,784,505	1,498,498
		その他	1,851,518	-
			6,525,351	1,498,498
農業関係		施設被害	32,407	11,250
		農作物等被害	216,783	113,971
		耕地関係被害	2,635,000	218,039
			2,884,190	343,260
環境林務関係		林地(崩壊地)	512,897	110,677
		施設被害等	865,818	453,854
		林産物	200	200
			1,378,915	564,731
保健福祉関係		病院・診療所等	87,063	95,712
		水道施設	187,858	191,410
		福祉施設	987,373	608,343
			1,262,294	895,465
商工労働 水産関係	商工業・ 観光関係	店舗・建物	352,825	324,525
		その他施設・機械設備	320,200	131,640
		商品・製品全材料	575,329	465,369
	水産関係	漁船	1,700	0
		漁業協同利用施設等	3,839	3,839
		その他水産関係被害	27,250	27,250
		その他	5,290	-
			1,286,433	952,623
教育庁 関係 (※文教関係)	学校関係	高等学校	2,807	-
		中学校	29,511	14,252
		小学校	67,785	74,140
		その他	27,400	15,084
	その他	81,530	51,523	
		209,033	154,999	
警察関係	警察施設関係	11,986	-	
	交通安全施設関係	9,946	-	
		21,932	-	
総計			13,568,148	4,409,576

表 3-25. 奄美豪雨災害での鹿児島県発表の公共施設被害額(1)及び奄美市の公共施設被害額(2)

